

ケガ

ケガも
いろいろ！
落ち着いて対処して！



？ ケガにはどんなものがあるの？

子どもは成長すると行動範囲が広がり、好奇心も旺盛になるので、ケガをすることも増えてきます。特に切り傷やすり傷、打撲などは、日々の生活の中でも起こりやすいもの。もしケガをしてしまったら、慌てずに症状をよく確認し、対処することが大事です。また犬や猫などの動物に咬まれると感染症になる場合があるので注意してください。



観察のポイント

- ・ ケガの原因は？
- ・ 傷はどれくらい？出血はしている？
- ・ 痛みはどれくらい？腫れている？
- ・ 呼吸は浅い？息苦しそう？
- ・ 体は動かせる？外見は変形していない？
- ・ 意識はある？ぐったりしていない？

出血が伴うケガの場合、患部を消毒するのではなく、流水でしっかり洗い流すことが大事です。また傷口を直接圧迫すると止血できません。

切り傷・すり傷の 応急処置と受診の目安

傷口から血が出ていたら、その部分をタオルなどの布で強く押さえて止血します。血が止まったら水で傷口を洗い、創傷被覆材などで覆ってください。創傷被覆材は傷口の乾燥を防ぎ、傷の治りを促す素材で、薬局でも市販されています。刺し傷で刺さった物が抜けない場合は、傷口を動かさずにそのままの状態で病院を受診してください。

傷口は水で洗って。
消毒すると
治りが遅くなることも！



救急車で病院へ！



- ☐ 傷が大きく、大量の血が出ている
- ☐ 傷の原因となる物が体に深く刺さり、抜けない

すぐに受診！



- ☐ 傷口が開いている
- ☐ 傷口がえぐれている
- ☐ 汚れた物が体に刺さった

打撲・骨折・捻挫の 応急処置と受診の目安

骨折や捻挫をしてしまったら、楽な姿勢で状態を保ち、その部分を動かさないようにしてください。可能であれば、身近にある固い棒状のもの（木や段ボールなどの固い紙でもOK）を部位に当てて包帯などで固定すると

いいでしょう。打撲の場合は、患部を保冷剤などで冷やしたり、冷湿布を貼ってもOKです。脱臼が疑われる場合は、楽な状態を保ち、整形外科を受診してください。

骨折を放置すると
症状が悪化することも。
早めの受診を心がけて！



救急車で病院へ！



- ☐ 不自然な骨の曲がりや腫れなどがあり、
外見が変形している
- ☐ 顔色が悪く、立つことができない
- ☐ 頭を打ち、けいれんを起こしている

すぐに受診！



- ☐ 痛くて動けない
- ☐ 痛みが続いている
- ☐ 機嫌が悪く、泣き止まない
- ☐ 頭を打ち、嘔吐を繰り返している

動物に咬まれたときの 応急処置と受診の目安

犬や猫に咬まれたら傷口を石鹸と水で洗い流し、すぐに病院を受診してください。猫の牙は鋭いので、見た目以上に傷が深い場合があります。感染症を起こしやすいといわれています。ヘビなどの野生動物や輸入動物に咬まれたときは、毒や土の中にある破傷風菌が咬み傷から入る可能性があります。呼吸が浅く、息苦しそうならすぐに病院へ。

すぐに受診！

- ☐ 野生動物や輸入動物に咬まれた
- ☐ 息苦しそうで、ゼーゼーしている
- ☐ 咬まれた部位がひどく腫れている
- ☐ 咬まれた傷が深い
- ☐ 4種混合（DPT-IPV）

もしくは3種混合（DPT）の
予防接種をしていない動物に咬まれた



犬に咬まれる
ケースは多く
複数回
咬まれることも



咬み傷から体内に菌が入ると腫れたり、化膿して症状が悪化することもあります。すぐに受診できず、傷口も浅いようであれば、傷口をよく洗って保冷剤などで冷やし、翌日には病院を受診してください。